

平成 24 年 9 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
(Tel: 03-3222-0132)

新薬候補化合物 RSR13、臨床開発データ共有に関する契約締結のお知らせ

この度、当社は、慢性心不全などによる運動能力低下の改善薬として開発予定の低分子化合物 RSR13 について、米国での臨床開発結果の全データを有する Virginia Commonwealth University (Richmond, Virginia) との間で、臨床および前臨床試験データの共有に関する契約を締結しましたのでお知らせいたします。

1. 契約締結の経緯

当社グループは、本年 5 月、当社特別技術顧問で心疾患治療において多数の研究成果を有する大津欣也教授 (King's College London 循環器科) と「慢性心不全における運動耐容能低下の改善剤」に関する共同開発契約を締結し、低分子化合物 RSR13 の薬剤有効性を推定する遺伝子検査の開発に取り組んでおります。

RSR13 は、放射線増感剤の一種で、がんの放射線治療を高める作用が期待されている低分子化合物です。大津教授は、RSR13 が赤血球のヘモグロビンと酸素分子との結合能力を変化させることにより体内の組織に酸素を通常以上に供給する特性に着目し、慢性心不全などで運動障害のある人の運動能力改善の有効性について研究開発を進めてきました。RSR13 の生体への効果は、慢性心不全をもつマウスの動物実験により証明され、国際的な科学論文としてすでに発表されています。一方で RSR13 は、すでに米国において Virginia Commonwealth University と Allos Therapeutics が放射線増感剤の候補化合物エファプロキシラル (Efaproxiral) として第三相臨床試験まで進めております。

当社グループは、Virginia Commonwealth University よりこの臨床および前臨床試験データを手し、開発予定の候補企業および King's College London と共同で本開発結果の評価を行い、慢性心不全などによる運動能力低下の改善薬として、今後の RSR13 の開発方針を決定していく予定であります。

2. 今後の見通し

平成 24 年 12 月期の当社連結業績に与える影響は軽微であります。

【マウスによる実験】

当社ホームページ (<http://www.medibic.com/>) 「慢性心不全における運動耐容能低下の改善剤」(RSR13) 投与による動物実験での効果」をご参照ください。

【心不全とは】

心臓のポンプ機能が低下して、全身が必要とする血液を十分に提供できない状態を指します。この状態が急激に起こる急性心不全と、心臓機能が徐々に低下していく慢性心不全の2つに大きく分けられます。特に慢性心不全は生活習慣病のひとつとされ、高齢化とともに患者数が増えています。慢性心不全の治療には、生活改善や薬物療法に加えて、手術による外科的治療も行われることもありますが、心臓の機能を元通りにする治療法は確立されていません。多くの場合、予後の改善と QOL (Quality of Life、生活の質) の向上を目指した治療に重点がおかれます。

【RSR13 とは】

放射線増感剤の一種で、エファプロキシラル (Efaproxiral) ともよばれます。血液中の酸素がヘモグロビンと結合しやすくすることによって、組織低酸素症を減少させ、放射線療法の効果を高めるとされています。

以 上